

報告セグメント

サービス区分

2024年3月期の実績

2025年3月期の見通し

環境関連事業

売上高(3月期)

71,032 百万円

2023年	65,472
2024年	71,032
2025年	75,900

セグメント利益(3月期)

20,109 百万円

2023年	16,715
2024年	20,109
2025年	20,800

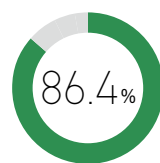
セグメント利益率

28.3%



廃棄物処理・資源循環

売上高構成比



売上高(3月期)

63,108 百万円

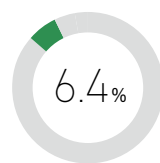
2023年	56,489
2024年	63,108
2025年	66,600

廃棄物の受入量は、2,207千トン(前年同期比16.6%増)となりました。これは、関西・中部エリアを中心とするインフラ開発案件に伴う廃棄物処理需要を獲得できたこと、三木リサイクルセンターの焼却等熱処理施設である三木バイオマスファクトリーが2023年10月から本格稼働したこと、パートナー企業や自治体との廃プラスチック資源循環システムの構築に注力したことなどによるものです。この結果、売上高は、前年同期比11.7%増加の63,108百万円となりました。



土壌浄化

売上高構成比



売上高(3月期)

4,699 百万円

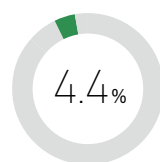
2023年	5,970
2024年	4,699
2025年	4,600

難処理土壌の獲得を進めた一方で、大型案件の終了や最終処分場で受け入れる汚染土壌の受注単価の見直しによる受入量を抑制したことなどにより、汚染土壌の受入量は、406千トン(前年同期比39.1%減)となりました。この結果、売上高は、前年同期比21.3%減の4,699百万円となりました。



その他

売上高構成比



売上高(3月期)

3,225 百万円

2023年	3,012
2024年	3,225
2025年	4,600

売上高

- 施設建設・運営管理 1,908百万円(前年同期比 3.6%減)
- コンサルティング 666百万円(前年同期比 5.4%増)
- エネルギー創造 568百万円(前年同期比104.6%増)
- 森林保全 14百万円(前年同期比 71.7%減)
- その他 66百万円(前年同期比 3.7%減)

物価上昇、地政学リスクおよび金融資本市場の変動の影響により不透明な状況は続くものの、引き続き活発な開発需要や省力化・デジタル化の推進などに伴う設備投資の増加、雇用・所得環境の改善を背景とする個人消費の持ち直しなどにより、景気改善が進むと予想しています。このような状況の中、廃棄物処理・資源循環について、大阪・関西万博やインフラ案件の大型開発工事の継続等により廃棄物受入量は堅調に推移すると想定しています。また、事業者や自治体が進めるプラスチック資源循環において、再商品化事業者としての参画を増やしていくとともに、2024年4月に連結子会社化した栄和リサイクル(株)と同じ関東エリアに拠点を置く(株)共同土木と一体となって運営することにより、同エリアでの受入量増加を進めていきます。また、土壌浄化については、これまでの方針を継続していくことで、汚染土壌の受入量は、前年同期並みを見込んでいます。これらの結果、2025年3月期の売上高の見通しは以下の通りです。

- 廃棄物処理・資源循環 66,600百万円(前年同期比5.6%増)
- 土壌浄化 4,600百万円(前年同期比1.1%減)

栄和リサイクル(株)の解体工事業の売上高が新たに計上されるため、その他売上高は、前年同期比で45.6%増加の4,600百万円と想定しています。

報告セグメント

サービス区分

2024年3月期の実績

2025年3月期の見通し

その他

売上高(3月期)

2,002 百万円



セグメント利益または損失(3月期)

▲238 百万円



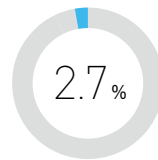
セグメント損失率

▲11.9%



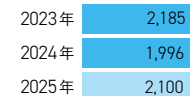
有価資源リサイクル

売上高構成比



売上高(3月期)

1,996 百万円



アルミパレットの販売量は下期から回復し、前年同期比で7.0%増加しましたが、アルミ市況が低水準で推移しているため、減収となりました。

リサイクルプラスチックパレットについては、流通業界の需要の縮小などにより販売量は減少したものの、販売単価の上昇に努めたことで、売上高は前年同期並みとなりました。

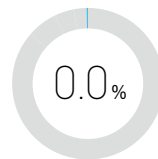
アルミパレットについて、アルミ市況が上昇傾向にあることに加えて、カーボンニュートラルに向けた電気炉需要が拡大傾向により、アルミパレットの販売量の回復を見込んでいます。

リサイクルプラスチックパレットについて、プラスチック資源循環の需要拡大に伴い、販売枚数拡大を図ります。これらの結果、有価資源リサイクルの売上高の見通しは、前年同期比で9.9%増加の2,100百万円となります。



スポーツ振興

売上高構成比



売上高(3月期)

6 百万円



2024年3月1日にWEリーグに所属する日本女子プロサッカークラブ「INAC 神戸レオネッサ」を運営するアイナックフットボールクラブ(株)の全株式を取得し、連結子会社化しました。これに伴い、2024年3月期第4四半期から「スポーツ振興」として「その他」に組み入れました。主な売上内訳は、スポンサー収入、グッズ販売・チケット販売、ファンクラブ会費となります。

女子サッカーを通じて、SDGsの項目の一つである「ジェンダー平等を実現しよう」の象徴となれるよう、試合のみならず地域のイベントなどにも積極的に参加するとともに、女子スポーツの課題であるセカンドキャリアの支援への取り組みや女性活躍社会の実現を展開するため、強固な財務基盤を構築し、経営の安定化を図ります。

2024年3月期は、新型コロナウイルス感染症の5類移行や雇用・所得環境の改善に加えて、活発な開発工事が下支えとなり、経済活動の正常化に向けた動きがより一層進みました。

このような状況のもと、インフラ開発案件に伴う廃棄物処理需要を獲得したこと、三木バイオマスファクトリーが2023年10月から本格稼働したこと、パートナー企業や自治体との廃プラスチック資源循環システムの構築に

注力したことなどにより、廃棄物の受入量が拡大しました。また、これまで外部委託していた業務の一部を社内ですることによってコスト削減も進めました。

こうした結果、2024年3月期の売上高は73,035百万円(前年同期比7.9%増)、営業利益は19,714百万円(前年同期比18.6%増)、経常利益は20,589百万円(前年同期比23.3%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は13,591百万円(前年同期比29.5%増)と、売上・利益

共に過去最高となりました。また、営業利益率は27.0%(前年同期比2.4ポイント増)、EBITDA※1は26,265百万円(前年同期比18.0%増)となり、EBITDAマージン※2は36.0%(前年同期比3.1ポイント増)となりました。

※1 EBITDA: 営業利益+減価償却費(営業外費用除く)+のれん償却額

※2 EBITDA マージン: EBITDA/売上高